

平成31年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 74

千葉県立成田国際高等学校 全日制の課程 普通科・国際科

1 期待する生徒像

(1) 普通科

本校を志願する動機及び理由が明確であり、入学後も本校の教育活動に積極的に取り組む意志を有し、次のア又はイのいずれかの要件を有する者

ア 学業成績が特に優秀で、かつ人物においても優れていること。

イ 学業成績が優秀で、かつ中学校生活全般にわたり、スポーツ活動、文化活動等において優れた実績や資質をもち、入学後もその活動を継続する強い意志があること。

(2) 国際科

国際社会に興味・関心を持つとともに、本校を志願する動機及び理由が明確であり、入学後も本校の教育活動に積極的に取り組む意志を有し、次のア又はイのいずれかの要件を有する者

ア 学業成績が特に優秀で、かつ人物においても優れていること。

イ 学業成績が優秀で、かつ中学校生活全般にわたり、スポーツ活動、文化活動等において優れた実績や資質をもち、入学後もその活動を継続する強い意志があること。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 口頭による自己表現・・・日本語による口頭発表（90秒程度） 普通科は日本語で、国際科は日本語及び英語で質疑応答 実施形態：個人で発表 検査時間：5分 イ 実技による自己表現・・・次の部活動実技のうち1つを選択 野球（男）・サッカー（男女）・ソフトボール（女）・ バレーボール（女）・陸上競技（男女）・剣道（男女）・ バスケットボール（男女）・卓球（男女）・テニス（男） 実施形態：個人で発表（ただし、団体種目は、複数人数で実施） 検査時間：60分程度（種目により異なる）

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔普通科500点満点・国際科550点満点〕

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	普通科は5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。 国際科は5教科（国語・社会・数学・理科は100点満点、英語は100点満点の得点を1.5倍して150点満点）の合計550点満点で評価する。

(2) 調査書 アの数値を調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3か年の欠席日数の合計が0または3か年皆勤の場合は、総合的に判定する際の参考とする。 各学年で20日以上、または3か年で40日以上欠席がある場合は、審議の対象とする。
ウ その他の記載事項	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 自己表現〔30点満点〕

2名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを5点、bを3点、cを1点とし、2名の評価者の評価（各15点満点）を合計し、得点化する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

ア 口頭による自己表現（日本語による口頭発表）

評価項目	評価基準
(ア) 発表の内容・構成	与えられたテーマに沿って、整理されたまとまりのある発表である。
(イ) 理解力	質問に対して的確に回答している。
(ウ) 表現力、話し方、マナー	表現力豊かに、正しい言葉遣いで、適切な態度・時間で話している。

イ 実技による自己表現（部活動実技）

評価項目	評価基準
(ア) 基本的な体力・運動能力	当該種目における基本的な体力や運動能力を身に付けている。
(イ) 専門性	当該種目に適した技術・能力を有しており、成長が期待できる。
(ウ) 意欲・態度	当該種目に意欲を持って取り組む態度が見られる。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

ア 「学力検査の成績」と「調査書の得点」の合計により順位をつけたとき、次のパーセント以内にある者は、入学許可候補者として内定する。

(ア) 受検者数が予定人員以内のときは、受検者数の80パーセント

(イ) 受検者数が予定人員を超えるときは、予定人員の80パーセント

ただし、調査書の教科の学習の記録、出欠の記録及び第2日の検査（自己表現）の結果等に問題となる点がないこと。

イ 上記アで決まらなかった者については、「学力検査の成績」と「調査書の得点」の合計に「第2日の検査（自己表現）の得点」を加えた「総得点」で順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳：普通科>

学力検査の成績	調査書の得点	第2日目の検査の得点	総得点
	評定（算式1）	自己表現	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	30点	$(665 + \alpha - m)$ 点

<総得点の満点の内訳：国際科>

学力検査の成績	調査書の得点	第2日目の検査の得点	総得点
	評定（算式1）	自己表現	
550点	$(135 + \alpha - m)$ 点	30点	$(715 + \alpha - m)$ 点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95

m ：中学校評定合計平均値

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

イ 入学許可候補者に内定した者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による内定者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。

平成31年度 海外帰国生徒の特別入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 74

千葉県立成田国際高等学校 全日制的課程 普通科・国際科

1 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	評価者3名の個人面接 (日本語で行うが、国際科は英語によるものを一部加える。) 検査時間：約15分
(4) 海外在住状況 説明書	実施要項(様式7)により、海外在住期間及びその前後の教育歴等を説明したもの

2 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	普通科は5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。 国際科は5教科(国語・社会・数学・理科は100点満点、英語は100点満点の得点を1.5倍して150点満点)の合計550点満点で評価する。

(2) 調査書

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3か年の欠席日数の合計が0または3か年皆勤の場合は、総合的に判定する際の参考とする。 各学年で20日以上、または3か年で40日以上欠席がある場合は、審議の対象とする。
ウ その他の記載事項	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接

3名の評価者が、次の3つの評価項目について、各評価基準に基づき、A(優れている)・B(標準的である)・C(問題がある)の3段階で評価する。

評価項目	評価基準
ア 目的意識	志望動機が明確であり、入学後に意欲的に学校生活に取り組みたいと考えている。
イ 発言内容、理解力	質問に対して具体例を用いながら、的確に答えている。
ウ 表現力、言葉遣い、態度、 服装、マナー	表現力豊かに、正しい言葉遣いで、適切な態度、服装、マナーで話している。

(4) 海外在住状況説明書

評価項目	評価基準
記載内容	志願資格があることを確認する。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

中学校の校長から送付された調査書、海外在住状況説明書等の書類の審査並びに学力検査の成績及び面接の結果を資料とし、総合的に判定して選抜を行う。
--

(2) その他

自己申告書が提出された場合には，選抜資料に加える。ただし，提出されたことにより，不利益な取扱いをしない。

平成31年度 外国人の特別入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 74

千葉県立成田国際高等学校 全日制の課程 国際科

1 選抜資料

(1) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(2) 面接	評価者3名の個人面接 (日本語で行うが、英語によるものを一部加える。) 検査時間：約15分
(3) 作文	字数：601字以上800字以内(日本語による) 検査時間：50分
(4) 外国人特別措置適用申請書	実施要項(様式8)により、入国年月日及びその前後の教育歴等を説明したもの

2 評価項目及び評価基準

(1) 調査書

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3か年の欠席日数の合計が0または3か年皆勤の場合は、総合的に判定する際の参考とする。 各学年で20日以上、または3か年で40日以上欠席がある場合は、審議の対象とする。
ウ その他の記載事項	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(2) 面接

3名の評価者が、次の3つの評価項目について、各評価基準に基づき、A(優れている)・B(標準的である)・C(問題がある)の3段階で評価する。

評価項目	評価基準
ア 目的意識	志望動機が明確であり、入学後に意欲的に学校生活に取り組みたいと考えている。
イ 発言内容、理解力	質問に対して具体例を用いながら、的確に答えている。
ウ 表現力、言葉遣い、態度、服装、マナー	表現力豊かに、正しい言葉遣いで、適切な態度、服装、マナーで話している。

(3) 作文

3名の評価者が、次の3つの評価項目について、各評価基準に基づき、A(優れている)・B(標準的である)・C(問題がある)の3段階で評価する。

評価項目	評価基準
ア 内容	テーマに即した内容になっている。
イ 構成	自分の考えを効果的に構成・表現をし、首尾一貫している。
ウ 表現・表記	適切な表現、わかりやすい表現となっている。文字が丁寧である。送り仮名が正確である。漢字使用が適切である。原稿用紙の使い方が適切である。字数不足や字数超過等がない。

(4) 外国人特別措置適用申請書

評価項目	評価基準
記載内容	志願資格があることを確認する。

3 選抜方法

(1) 選抜方法

中学校の校長から送付された調査書，外国人特別措置適用申請書等の書類の審査並びに面接及び作文の結果を資料とし，総合的に判定して選抜を行う。

(2) その他

自己申告書が提出された場合には，選抜資料に加える。ただし，提出されたことにより，不利益な取扱いはしない。

※前期選抜等で入学許可候補者に内定した者のうち入学確約書を提出した者の数が、募集定員を満たした学科については、後期選抜は実施しません。

平成31年度 後期選抜の選抜・評価方法

学校番号 74

千葉県立成田国際高等学校 全日制の課程 普通科・国際科

1 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書

2 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	普通科は5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。 国際科は5教科（国語・社会・数学・理科は100点満点，英語は100点満点の得点を1.5倍して150点満点）の合計550点満点で評価する。

(2) 調査書

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3か年の欠席日数の合計が0または3か年皆勤の場合は、総合的に判定する際の参考とする。 各学年で20日以上，または3か年で40日以上欠席がある場合は、審議の対象とする。
ウ その他の記載事項	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

平成31年度千葉県公立高等学校入学者選抜実施要項に従い判定する。

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。
イ 入学許可候補者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

4 その他

過年度卒業者については、検査終了後、別途個人面接を行う。